

立教大学 社会情報教育研究センター

2019 年度 活動報告書

April 2019 - March 2020

CSI Activity Report



目次 Contents

1	2019年度の主な事業活動.....	3
2	各部会の事業計画および事業報告.....	6
1)	政府統計部会.....	6
2)	社会調査部会.....	9
3)	統計教育部会.....	15
3	資格支援事業.....	21
1)	社会調査士.....	21
2)	統計検定.....	24
4	教育支援事業.....	25
1)	正課科目の開発・提供.....	25
2)	各種コンテンツの開発および改修.....	26
5	研究支援事業.....	27
1)	調査研究コンサルティング.....	27
2)	統計セミナーサポートスタッフ.....	28
3)	対外連携活動.....	28
6	出版物.....	29
7	組織図および構成メンバー.....	30

1 2019年度の主な事業活動

2019年

4月

- 10日 統計検定 学内申し込み受付開始（～5月6日）
- 17日 第1回 CSI センター運営会議
- 22日 統計検定対策ガイダンス(池袋・新座キャンパス中継)
- 24日 第1回統計検定対策セミナー（講師：山口助教）
- 27日 第2回統計検定対策セミナー（講師：山口助教）

5月

- 10日 第3回統計検定対策セミナー（講師：山口助教）
- 15日 第2回 CSI センター運営会議
- 15日 第1回 CSI センター連絡会議
- 18日 第4回統計検定対策セミナー（講師：山口助教）
- 27日 IASSIST 学会出席（～6月1日、五十嵐助教・高橋助教）

6月

- 1日 第5回統計検定対策セミナー（講師：山口助教）
- 3日 社会調査士（キャンディデイト）資格の春学期・科目証明書申請（～6月15日）
- 11日 第1回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの使い方・探し方」（講師：高橋助教）
- 16日 統計検定 JINSE 特設会場受験 実施
- 20日 グローバル教養副専攻説明会
- 28日 Data Scientist Fes 2019 スタートアップ講演会(立教大学人工知能科学研究科開設準備室、日本経済新聞社共催)

7月

- 1日 第1回 CSI 統計活用セミナー「地理情報データ分析セミナー①」（講師：小西純氏）
- 8日 第2回 CSI 統計活用セミナー「地理情報データ分析セミナー②」（講師：小西純氏）
- 17日 第3回 CSI センター運営会議
- 17日 第2回 CSI センター連絡会議
- 30日 SSH 高校生向け統計教育セミナー（市立千葉高等学校・JINSE 高大連携委員との共同開催）

8月

- 27日 社会調査協会：S1 科目講習会（～28日）（社会調査部会対応）
- 30日 教務部 情報リテラシー研修（講師：山口和範教授）

9月

- 6日 経済統計学会全国研究大会（仙台市）参加（櫻本准教授・濱本助教・石田 RA）（～9月7日）
- 10日 東温市打合せ（政府統計部会対応）
- 10日 社会調査協会：S1科目講習会（～11日）（社会調査部会対応）
- 10日 教務部 情報リテラシー研修（講師：山口和範教授）
- 19日 第1回統計調査士対策セミナー収録「統計制度で点数アップ」（講師：西林助教）
- 25日 統計検定対策ガイダンス(池袋)（統計教育部会対応）
- 27日 第2回統計調査士対策セミナー収録「図表を読んで点数アップ」（講師：濱本助教）
- 28日 第1回統計検定試験対策講座（講師：山口助教）
- 30日 社会調査士（キャンディデイト）資格の秋学期・科目証明書申請（～10月9日）
- 30日 統計検定対策ガイダンス(新座)（統計教育部会対応）

10月

- 2日 第4回CSIセンター運営会議
- 5日 第2回統計検定試験対策講座（講師：山口助教）
- 15日 『日本の公的統計・統計調査』書籍発行（政府統計部会）
- 17日 第3回統計検定試験対策講座（講師：山口助教）（本来12日であったが、台風のため延期）
- 19日 第4回統計検定試験対策講座（講師：山口助教）
- 21日 第2回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析1 クロス集計・相関係数」（講師：高橋助教）
- 26日 第5回統計検定試験対策講座（講師：山口助教）

11月

- 6日 第6回統計検定試験対策講座（講師：山口助教）
- 8日 第5回CSIセンター運営会議
- 24日 統計検定 JINSE 特設会場受験 実施
- 27日 第3回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析2 回帰分析・二次分析」（講師：五十嵐助教）

12月

- 2日 CSI設立10周年記念座談会（菊地進名誉教授、松本康教授、山口和範教授、水上徹男教授）
- 2日 第3回CSI統計活用セミナー「SPSSとRによるマイクロデータ分析」（講師：西林助教）
- 5日 第10回社会調査フォーラム（太刀川記念館 第1・2会議室）（講師：小川和孝氏）
- 9日 第4回CSI統計活用セミナー「SPSSとRによるマイクロデータ分析」（講師：濱本助教）
- 17日 東温市中小企業向けシンポジウム（講師：菊地進名誉教授）
- 18日 第6回CSIセンター運営会議
- 18日 第3回CSIセンター連絡会議

2020年

1月

- 20日 社会調査士 指定科目証明書申請受付①（～1月31日）
- 22日 グローバル教養副専攻説明会

2月

- 24日 アドバンスド社会調査セミナー（27日、28日、29日 全4日間開催）
- 28日 社会調査士 指定科目証明書申請受付②（～3月6日）
- 28日 研究紀要『社会と統計』第6号発行

3月

- 11日 第7回 CSI センター運営会議
- 11日 第4回 CSI センター連絡会議
- 24日 社会調査士資格申請書・変更届書提出期間（池袋・新座～3月27日）

2 各部会の事業計画および事業報告

1) 政府統計部会

2019 年度事業計画

(1) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

公的統計に関する E-ラーニングコンテンツを 2021 年度に運用することを目標として構想をまとめる。

2019 年度は予算申請を行って準備に取り掛かる。その中で既存コンテンツ①～⑥の位置づけと統廃合を検討する。

A. 公的統計利活用・マイクロデータ

- ① 公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user (すたまる)
- ② 公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator (すたなび)
- ③ 将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents (ポコ)
- ④ 経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents (リコ)
- ⑤ SPSS を利用したマイクロ統計分析コンテンツ
- ⑥ 公的統計の二次的利用制度に関する学習コンテンツ

B. 統計検定統計調査士・専門統計調査士資格取得支援事業

- ⑦ 統計検定・統計調査士受験学習コンテンツ
- ⑧ 統計検定・統計調査士得点源対策問題集

部会作成の上記①～⑧のコンテンツについて、講習会や授業内利用による経験を踏まえ、さらなる内容の改良を図る。また、教員に向けた説明会、学生に向けた講習会を開催し、利用を促すとともに教育利用の経験を集約する。⑦は統計法改正に合わせて 2019 年度内に新出版物を発行する(タイトル未定)。講習会は上記よりいくつか選び、春学期・秋学期に池袋・新座で随時実施する。

(2) 地域における統計分析と紹介

2019 年度当面は委託が発生しないと予想する。しかし東温市はシンポジウムや講演などへの協力を依頼される可能性がある。自治体からの委託に臨機応変に対応できる体制を取る。

(3) 公的統計の二次的利用を含む個票を使用した統計データの利活用制度の推進

2018 年の統計法改正によって、これまでよりマイクロデータの利活用の範囲が拡大することを踏まえて、他の私学と連携しながら、サテライト機関に向けた情報収集を進める。また、これまで通り学内研究者向けに公的統計の二次的利用制度(匿名データ利用、オーダーメイド集計)と国際マイクロデータベースの紹介を進める。公的統計の二次的利用制度に関する紹介については、実際に利用を試みるとともに、利用体験を紹介する。また二次的利用を促すため、教育用マイクロ統計分析コンテンツを活用し、その教材としての完成度を高める。

(4) CSI 統計研究会・講習会・講演会の開催

調査統計および加工統計の作成機関の担当者を招き、統計研究会を開催する。また、統計利用とも関わる講習会・講演会を開催する。2019年度は公的統計の二次的利用及び統計 GIS の利用が拡充されたことを受けて、これらの利用促進を進める。

(5) 統計検定受験の促進

統計教育部会と連携し、学習意欲向上のため 2019 年度統計検定の受験への事業協力を行う。学部 1 年次に 3 級、2 年次以上で 2 級・統計調査士を勧める。また、本学学生の統計調査士試験の合格率を高めるため、先の⑦～⑧を使用して学生のための支援活動を実施する。統計調査士対策セミナーは録画で実施する。

2019 年度事業報告

(1) セミナー開催

◆CSI 統計活用セミナー（池袋キャンパス開催）

CSI 統計活用セミナーの目的は、公的統計の利活用について学習することである。

春学期のセミナーでは、Arc GIS の使い方のセミナーを行い、秋学期のセミナーでは SPSS、R を用いたマイクロデータ分析についてのセミナーを開催した。

1. 春学期

講義内容：地理情報データ分析セミナー ①

開催日時：2019 年 7 月 1 日（月） 17：10～18：50

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師：小西 純（公益財団法人 統計情報研究開発センター 主任研究員）

参加人数：18 名

講義内容：地理情報データ分析セミナー ②

開催日時：2019 年 7 月 8 日（月） 17：10～18：50

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師：小西 純（公益財団法人 統計情報研究開発センター 主任研究員）

参加人数：16 名



2. 秋学期

講義内容：SPSS によるマイクロデータ分析

開催日時：2019 年 12 月 2 日（月） 17：10～18：50

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：西林 勝吾（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：18 名



講義内容：Rによるマイクロデータ分析

開催日時：2019年12月9日（月） 17：10～18：50

場 所：池袋キャンパス 8号館 8501教室

講 師：濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：18名

◆統計調査士対策セミナー

統計検定統計調査士試験のための対策セミナーを以下のとおり開催した。

2019年10月に発行された、最新版のオリジナルテキスト『日本の公的統計・統計調査』を使用した実践的なセミナーである。なお、本セミナーはBlackboardで配信を行っている。

〈第1回〉

講義内容：「統計制度で点数アップ」一般公開、オンデマンドセミナー

視聴期間：2019年10月15日（火）～試験前日

講 師：西林 勝吾（社会情報教育研究センター 助教）

一般申込者数：10名

視聴者数：19名

〈第2回〉

講義内容：「図表を読んで点数アップ」

視聴期間：2019年10月15日（火）～試験前日

講 師：濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

視聴者数：13名



（2）調査・分析の受託事業

愛媛県東温市は、2018年3月に中小零細企業振興の『行動指針』を定め、同事業の第3ステージへの歩みを始めようとしている。そのステップとするため、2019年12月17日に東温市中央公民館にてシンポジウムが開催され、かねてより事業受託しているCSIより菊地が「『指針』が生む企業とまちの活性化」と題する講演を行った。当日は市内中高生からの市内企業取材の発表もあり大変盛会であった。

また、2019年度中に愛媛県東温市長及び産業創出課の方々が数回上京され、櫻本・藤野の2名で今後の調査の実施方針を意見交換することができた。

（3）2019年度事業を振り返って

統計調査士試験で、政府統計部会が発行したテキスト『日本の公的統計・統計調査』が広く利用され、他大学教員やシンクタンク研究員から幅広く声をかけられる機会があった。質保証協会からも正式に認められ、統計検定の関連書籍にも選定いただいた。また政府の統計改革にも一定程度貢献できたため、長年の準備が実った1年だったと総括できる。

2) 社会調査部会

2019 年度事業計画

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

① データ整備業務

- ・ 2018 年度までに、寄託されたデータセットのうち 58 データをクリーニングし、公開した。2019 年度では、さらに 3 データセットをクリーニングする。
- ・ 紙媒体で寄託された調査データの中で研究資料としての価値が高いと判断されるデータの電子データ化を行う。
- ・ 立教大学の社会調査士科目 G (社会調査を実際に経験し学習する科目) で蒐集された、量的な社会調査データを対象に RUDA への寄託問い合わせを行い、寄託されたデータを収集し、公開する。
- ・ RUDA の海外への発信力強化に向け、国際基準である DDI (Data Documentation Initiative) フォーマットに基づくメタデータの作成を継続して行う。

② データ提供業務 (データセットの一般公開)

- ・ 2018 年度末において、58 データセットを公開している。2019 年度はこれに 3 セットを加え、年度末までに合計 61 データセットを公開する。
- ・ DDI フォーマットで記述されたメタデータを RUDA にて公開を行う。

③ RUDA データの利用促進に向けた取り組み

- ・ 社会調査活用セミナーの開催：RUDA データの教育・研究利用をさらに促進するため、データの利活用に関するセミナーを開催する。具体的には、RUDA を中心としたデータアーカイブの利活用をテーマとするセミナーを年に 1 回行い、RUDA データを利用した 2 次分析のやり方に関するセミナーを年 2 回行う。これらの成果を踏まえ、将来的には Web コンテンツの作成などを行い、より広範な RUDA データの利用に向けた基盤構築につなげることを想定している。

④ アーカイブ事業の協力体制

- ・ DDI を基盤として、国内外アーカイブとの連携事業を行い、より広範な 2 次利用環境の整備、そしてアーカイブ事業に関わる研究協力基盤の構築を行う。具体的には以下の 2 つの事業を行う。

相互検索システムの構築：

RUDA と国内外アーカイブでそれぞれが所有しているデータを一元的に検索することができるシステムを構築し、網羅的・効率的なデータ検索環境の整備を行う。そのために、NII が開発したオープンサイエンスのための研究データ基盤の利用やオープンサイエンスに対応した寄託公開システムを模索する。

研究協力基盤の構築：

データアーカイブ運営の在り方をテーマとする研究基盤を国内外アーカイブとの共同のもと整備し、国内アーカイブ水準の改善に向けた研究発信を行う。そのために、国際会議 IASSIST にて先進的な海外アーカイブ事情を確認し、改善案を模索する。

(2) 社会調査士資格関連事業

① 社会調査士・専門社会調査士科目申請の支援

組織会員として加入している社会調査協会に対し、学内における一元的な連絡責任者として、学部・研究科内の学内連絡責任者と連携して社会調査士・専門社会調査士カリキュラムの科目申請事務を行う。また、学部・研究科が設置する資格対応科目の認定申請に関する相談受付などの諸支援を行う。

② 社会調査士・専門社会調査士取得申請の支援

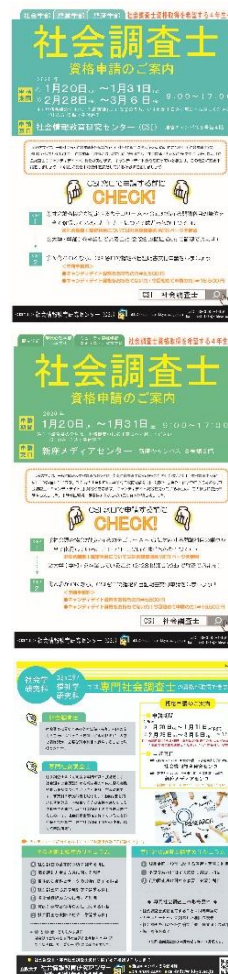
教務事務センターと連携して学部学生・大学院学生が社会調査士・専門社会調査士資格取得支援体制を整備し、取得希望者に対する相談・申請の受付業務を行うとともに、資格申請に関する学内広報を行う。2015年度では後期申請期間より卒業生からの申請受付可能な体制を構築した。

また、教務事務センターと連携して2012年度より導入した指定科目証明書発行システムの運用を通じ、資格取得相談から申請までの一貫した窓口業務を提供する。

③ 社会調査協会の講習事業への協力

社会調査協会と連携し、同協会が講習事業として実施する専門社会調査士(正規)の資格取得をめざす。

大学院生向け講習会(S科目講習会)、および実務者向け講習会(アドバンスド・セミナー)等の開催に協力する。2019年度は、S科目講習会(2019年9月開催予定)、アドバンスド社会調査セミナー(2020年3月開催予定)への協力を行う。



(3) その他対外連携事業

- ・ ICPSR (Interuniversity Consortium for Political and Social Research) の国内利用協議会を通じた会員機関として、その所蔵データ利用の学内広報につとめる。
- ・ ICPSR 本部が実施するサマープログラム(セミナー)、および ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報につとめる。

(4) 社会調査フォーラムの開催

統計的社会調査の理論と方法に関する実践例の紹介を企図とするセミナー(社会調査フォーラム)を、1回以上開催する。具体的には、外部から社会調査の経験がある研究者を招聘し、社会調査の実際をテーマとする研究会の開催を通して、その理論や方法を広く学ぶ機会を設ける。または、社会調査データを活用している実務家をお招きし、活用に至った経緯やその実践と意義に関する講演会を開催する。

(5) 社会調査に関わるコンサルティング事業

- ① 学内研究者と大学院学生に対し、社会調査の企画・設計に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。
- ② 学内部局に対して、社会調査の企画・設計の諸方法に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。

2019 年度事業報告

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

立教大学社会調査データアーカイブ (Rikkyo University Data Archive: RUDA) は、研究目的や教育目的の二次分析のため、以下のとおりデータセットを公開している。2019 年度は 3 データセットを新たに公開した。また、ruda0021 から ruda0056、ならびに ruda0058 から ruda0060 の計 39 件について、国際標準規格 DDI 形式のメタデータを追加公開した。

〈2019 年度 公開データセット：3 件〉

公開日	調査名
2019 年 9 月 19 日	産業・職業と地域生活に関する調査
2019 年 7 月 2 日	都市生活と家族に関する意識調査
2019 年 4 月 22 日	コミュニケーション構造の変化と子供の社会化調査

(2) セミナー・各種イベント開催

近年、統計的な社会調査データを用いた実証分析や統計・社会調査教育への関心が高まり、社会調査データアーカイブを通じて公開されたデータを利用した二次分析や統計教育が注目されている。

2019 年度は以下のフォーラム・セミナーを開催した。

◆CSI 社会調査データ活用セミナー

〈第 1 回〉

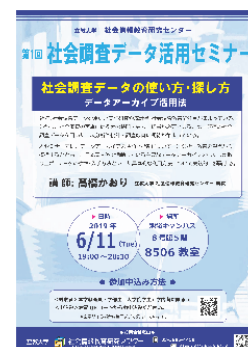
テ ー マ：社会調査データの使い方・探し方—データアーカイブ活用法—

開催日時：2019 年 6 月 11 日 (火) 19:00~20:30

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8506 教室

講 師：高橋 かおり (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：10 名



〈第 2 回〉

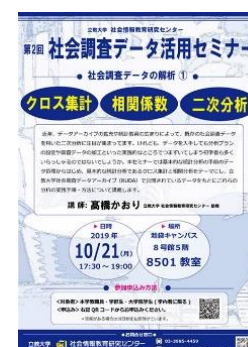
テ ー マ：社会調査データの解析 1 ～クロス集計/相関係数編～

開催日時：2019 年 10 月 21 日 (月) 17:30~19:00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：高橋 かおり (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：14 名



〈第3回〉

テーマ：社会調査データの解析 2 ～回帰分析・二次分析～

開催日時：2019年11月27日（水） 17：30～19：00

場所：池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講師：五十嵐 彰（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：7名



◆第10回社会調査フォーラム

テーマ：傾向スコア入門：理論から実践まで

開催日時：2019年12月5日（木） 18：00～19：30

場所：池袋キャンパス太刀川記念館 第1・第2会議室

講師：小川 和孝（慶應義塾大学、日本学術振興会特別研究員 PD）

参加人数：18名



◆共催・後援セミナー等

社会調査協会では、社会調査士資格を持たない大学院学生および実務者の専門社会調査士資格取得を支援するために、社会調査士資格標準カリキュラム A,B,C 科目に対応する S1 科目講習会と標準カリキュラム D,E 科目に対応する S2 科目講習会、そして、大学院学生や社会調査に関連する知識や技能の向上をめざす研究者・実務者に向けた講習会であるアドバンスド社会調査セミナーを実施している。2019 年度はこれらの講習会のうち、S1 科目講習会とアドバンスド社会調査セミナーの開催協力を行った。

●社会調査協会 2019 年度社会調査士科目（S1）講習会

日程：2019年8月27日（火）、28日（水）、9月10日（火）、11日（水） 9：00～18：00

場所：池袋キャンパス 8号館 8402 教室

—8月27日(火)：

- | | | | |
|-----|-------------------------|-----|------------------------|
| 1 限 | オリエンテーション：社会調査の意義と役割 | 4 限 | 質的調査の概要：事例研究法・フィールドワーク |
| 2 限 | 社会調査の歴史と調査倫理 | 5 限 | 質的調査の方法と実際 |
| 3 限 | 社会調査の種類と実例：政府統計と様々な社会調査 | | |

—8月28日(水)：

- | | | | |
|-----|--------------------|-----|------------|
| 1 限 | 量的調査の企画・設計 | 4 限 | サンプリングの考え方 |
| 2 限 | 量的調査の実施方法 | 5 限 | サンプリングの実際 |
| 3 限 | 質問文・選択肢の作り方と調査票の設計 | | |

－9月10日(火)：

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1 限 調査データの整理：エディティング・コーディング・データ入力 | 3 限 平均・分散・標準偏差 |
| 2 限 単純集計・度数分布とデータ・クリーニング | 4 限 分布の読み方 |
| | 5 限 推定の考え方 |

－9月11日(水)：

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 限 クロス集計表の読み方・作り方 | 4 限 相関関係と因果関係 |
| 2 限 カイ二乗検定と連関の指標 | 5 限 調査・分析結果の読み方・まとめ |
| 3 限 クロス表のエラポレイション | |

講師：菅野 剛（日本大学 文理学部 教授）
三井 さよ（法政大学 社会学部 教授）
土屋 隆裕（横浜市立大学 データサイエンス学部 教授）
金澤 悠介（立命館大学 産業社会学部 准教授）

●社会調査協会 第5回アドバンスド社会調査セミナー

日程：2020年2月24日（月）、27日（木）、28日（金）、29日（土） 9：00～18：00

場所：池袋キャンパス 8号館 8501教室（2月24日、27日、28日）

池袋キャンパス本館 1204教室（2月29日）

－2月24日(月)：

- | | |
|--|------------------------|
| 1 限 質的データの計量分析：自由回答とインタビューのコンピュータ・コーディング | 3 限 集合論的思考と質的比較分析（QCA） |
| 2 限 質的データの計量分析：自由回答とインタビューのコンピュータ・コーディング | 4 限 集合論的思考と質的比較分析（QCA） |
| | 5 限 集合論的思考と質的比較分析（QCA） |

－2月27日(木)：

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 限 ロジスティック回帰分析の基礎 | 4 限 ロジスティック回帰分析の基礎（続き） |
| 2 限 ロジスティック回帰分析の基礎 | 5 限 ロジスティック回帰分析の基礎（続き） |
| 3 限 ロジスティック回帰分析の基礎（続き） | |

－2月28日(金)：

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 限 マルチレベル分析の考え方 | 4 限 マルチレベル分析の実際（SPSS 実習） |
| 2 限 マルチレベル分析の考え方 | 5 限 マルチレベル分析の実際（SPSS 実習） |
| 3 限 マルチレベル分析の実際（SPSS 実習） | |

ー2月29日(土)：

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 限 世論調査の現状と課題 | 4 限 質的調査の有効性と分析方法を考える：
インタビューによる調査 |
| 2 限 世論調査の現状と課題 | |
| 3 限 質的調査の有効性と分析方法を考える：
インタビューによる調査 | 5 限 質的調査の有効性と分析方法を考える：
インタビューによる調査 |

講師：川端 亮（大阪大学 人間科学研究科/人間科学部 教授）

石田 淳（関西学院大学 社会学部 教授）

藤原 翔（東京大学 社会科学研究所 准教授）

保田 時男（関西大学 社会学部 教授）

西倉 実季（和歌山大学 教育学部 准教授）

福田 昌史（読売新聞社）

社会調査士資格関連事業、社会調査に関わるコンサルティング事業、その他対外連携事業（ICPSR）については別途記載する。

（3）2019 年度事業を振り返って

RUDA に関しては、目標通り 3 つのデータセットをクリーニングし、公開することができた。また国際基準である DDI フォーマットに基づくメタデータを作成し、2018 年度までに公開されたデータセットについてはすべて DDI でのメタデータの提供を開始した。

CSI 社会調査データ活用セミナーや社会調査フォーラムに関しては、院生・研究者向けの内容に変更したが、時間的制約によって消化不良な面がみられる。実習編を分けるなど工夫が必要であろう。



3) 統計教育部会

2019 年度事業計画

(1) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

『社会調査入門』の管理・運営

『データ分析入門』の管理・運営

『社会調査の技法』の管理・運営

『データの科学』の管理・運営

『多変量解析入門』の管理・運営

『Introduction to Statistics 1』の管理・運営

『Introduction to Statistics 2』の管理・運営

これら 7 科目の詳細は「オンデマンド授業」をご参照ください。

(2) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業用教材の評価と検証

受講生の学習履歴データ、モニター学生からのコメントなどをもとに、オンデマンド授業用教材を評価・検証する。

(3) CSI 統計検定対策セミナーの開催

統計検定合格水準の統計学に関する知識と活用力を身に着けるためのセミナーの開催。幅広い学力層に対応した学習教材の作成も行う。上記セミナーを、池袋キャンパスで開催するとともに、オンラインコースでも実施する。

(4) 統計教育のための教材およびプログラムの新規開発

社会から求められる人材育成のための、新たな教育プログラムや教材を開発する。

(5) 統計教育フォーラム・公開講演会の開催

社会調査や統計関係の科目担当者向けの、FD を行う場としての統計教育フォーラムや統計教育の開発、推進のための公開講演会を開催する。

(6) 「統計検定」の学内試験実施および統計関連の試験導入の検討

立教大学学生が学内で「統計検定」を受験できるための環境を提供するとともに、その準備講座を開講する。また統計教育に関連する試験導入の検討を行う。

(7) 学外統計教育関連行事への共催や後援

スポーツデータ解析コンペティションをはじめとする学内外での統計教育関連の事業への関与を通じ、社会的貢献を行う。

(8) スーパーサイエンススクール選定校との高大連携プログラムの開発実施

統計やデータ活用に関する高大連携プログラムの開発と実施を行う。

(9) 大学間連携共同教育推進事業への取組

拡大版 JINSE に参加して、加盟大学と継続して統計教育改善の活動を行う。

(10) データサイエンス副専攻の支援

オンデマンドの学習コンテンツを追加・改善し、新設されたデータサイエンス副専攻の支援を行う。

(11) オンデマンド科目の追加または改善を行う。

2019 年度事業報告

(1) オンデマンド授業・セミナー等について

◆全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営を行った。受講者数は下記の通り、その他の詳細は別途記載している。

1. 『社会調査入門』 受講者数：120 名
2. 『データ分析入門』 受講者数：118 名
3. 『社会調査の技法』 受講者数：87 名
4. 『データの科学』 受講者数：65 名
5. 『多変量解析入門』 受講者数：19 名
6. 『Introduction to Statistics 1』 受講者数：20 名
7. 『Introduction to Statistics 2』 受講者数：10 名



◆CSI 統計分析セミナー

CSI 統計分析セミナーは Blackboard を通じて配信するオンデマンド型のセミナーである。既存の SPSS 統計解析 (Basic コース/SEM コース) および R 統計解析 (基本コース/多変量解析コース) に加え、2018 年度からは統計検定対策セミナーコースの配信を行っている。

【現在公開中のコース】

1. SPSS 統計解析 (Basic コース)

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

講師：大橋 洸太郎

(前 社会情報教育研究センター 助教)

2019 年度登録者数：47 名

2. SPSS 統計解析 (SEM コース)

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

講師：大橋 洸太郎

(前 社会情報教育研究センター 助教)

2019 年度登録者数：11 名

3. R統計解析（基本操作コース）

統計解析環境 R の動作に関して、R の起動からデータの保存、終了の仕方などの基本操作に習熟する。また、スクリプトの書き方を通じて、簡単なデータハンドリングの技術を身に着ける。

講師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

2019 年度登録者数：69 名

4. R統計解析（基本操作コース2）

- ・ R を使って 1 変数の集計ができるようになる。
- ・ R を使って 2 つの質的変数の関係性を把握する。
- ・ R を使って 2 つの量的変数の関係性を把握する。

講師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

2019 年度登録者数：25 名

5. R統計解析（多変量解析コース1）

第1回 R/R Studio の使い方

第2回 重回帰分析

第3回 分散分析（1,2 要因参加者間実験）

講師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

2019 年度登録者数：20 名

6. R統計解析（多変量解析コース2）

第1回 R/R Studio で因子分析

第2回 R/R Studio でクラスター分析

第3回 これまでのまとめ（春学期/秋学期）

講師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

2019 年度登録者数：16 名

7. 統計検定対策セミナー

●オリジナルテキスト

●動画（以下 17 コンテンツ）

- ・ 1 変数データの要約 ・ 2 変数データの要約 ・ 離散型確率変数 ・ 様々な離散型確率変数 ・ 連続型確率変数
- ・ 様々な連続型確率変数 ・ 推定 ・ 母平均の区間推定 ・ 母比率の区間推定 ・ 母分散の区間推定
- ・ 仮説検定とは、母比率の検定 ・ 母平均の検定 ・ 母平均の差の検定 ・ 適合度検定、独立性の検定 ・ 分散分析
- ・ 単回帰分析 ・ 重回帰分析

講師：山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

2019 年度登録者数：75 名

◆統計検定ガイダンス・受験対策セミナー

学生が学内で統計検定を受験できるよう、立教大学では団体受験制度を導入している。2019 年度は 6 月 16 日および 11 月 24 日に統計検定を大学内会場にて実施した。社会情報教育研究センターでは、自主的な統計学習のサポートとして、対面での統計検定ガイダンスや受験対策セミナーを実施している。また 2 級および 3 級の試験対策として、オンデマンドコンテンツ向けのテキスト及び動画を新たに作成し、配信した。

6/16 統計検定受験
統計検定 2・3 級
対策セミナー

6/24 1級対策セミナー
6/27 2級対策セミナー
6/30 3級対策セミナー
6/1 4級対策セミナー
6/3 5級対策セミナー

統計検定
試験対策講座

11/24 12/1 12/8 12/15 12/22 12/29

◆統計検定ガイダンス

〈春季〉

開催日時：2019年4月22日（月）12：40～13：10

場 所：池袋キャンパス 8号館 8303 教室

新座キャンパス：N8B1 教室（同時中継開催）

講 師：池袋 山口 誠一・門田 実（共に社会情報教育研究センター 助教）

講 師：新座 山口 和範（経営学部 教授）

参加人数：池袋 8名、新座 1名

〈秋季〉

開催日時：2019年9月25日（水）12：30～13：00

場 所：池袋キャンパス 本館 1103 教室

講 師：山口 誠一

（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：15名

開催日時：2019年9月30日（月）12：30～13：00

場 所：新座キャンパス 8号館 N224 教室

講 師：加藤 倫子

（社会情報教育研究センター

教育研究コーディネーター）

参加人数：2名



◆統計検定対策セミナー（対面形式）

〈春季〉

開催日時：2019年4月24日（水）17：30～19：30

場 所：池袋 8号館 8503 教室

講 師：山口 誠一

（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：1名

開催日時：2019年4月27日（土）15：00～17：00

場 所：池袋 8号館 8503 教室

講 師：山口 誠一

（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：4名

開催日時：2019年5月10日（金）18：40～20：40

場 所：池袋 8号館 8503 教室

講 師：山口 誠一

（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：5名

開催日時：2019年5月18日（土）15：00～17：00

場 所：池袋 8号館 8503 教室

講 師：山口 誠一

（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：4名

開催日時：2019年6月1日（土）15：00～17：00

場 所：池袋 8号館 8502 教室

講 師：山口 誠一

（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：5名

〈秋季〉

開催日時：2019年9月28日(土) 15:00~17:00

場 所：池袋8号館 8503教室

講 師：山口 誠一

(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：11名

開催日時：2019年10月5日(土) 15:00~17:00

場 所：池袋8号館 8503教室

講 師：山口 誠一

(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：6名

開催日時：2019年10月17日(木)19:30~21:30

場 所：池袋8号館 8506教室

講 師：山口 誠一

(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：5名

開催日時：2019年10月19日(土)15:00~17:00

場 所：池袋8号館 8504教室

講 師：山口 誠一

(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：8名

開催日時：2019年10月26日(土)15:00~17:00

場 所：池袋8号館 8503教室

講 師：山口 誠一

(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：4名

開催日時：2019年11月6日(水) 17:30~19:30

場 所：池袋8号館 8503教室

講 師：山口 誠一

(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：5名

◆高校生向け統計教育セミナー

2019年度も統計教育に関する研修依頼があり、プログラムを実施した。

講義内容：統計的思考力の育成

開催日時：2019年7月30日(火) 9:00~17:00

場 所：池袋キャンパス 8号館 8404教室

講 師：山口 和範(経営学部 教授)

参加人数：千葉市立千葉高等学校の生徒および引率教諭 計23名

(2) 共催・後援セミナー等

◆Data Scientist Fes2019

立教大学社会情報教育研究センター主催、立教大学人工知能科学研究科開設準備室、日本経済新聞社共催の Data Scientist Fes 2019 のスタートアップ講演会「データサイエンス×AI×リベラルアーツ~これからの社会で求められる『価値』とは?~」を下記の要領で開催した。

開催日時：2019年6月28日(金) 17:30~19:30

場 所：池袋キャンパス 11号館 A B01教室



講 師：竹川隆司（(株) zero to one 代表取締役社長）

岡田陽介（ABEJA 社長）

村上祐子（立教大学理学部特任教授、総長室調査役）

参加人数：約 500 名

◆第 9 回スポーツデータ解析コンペティション

日本統計学会 スポーツ統計分科会主催のスポーツデータ解析コンペにおいて、本年度も統計教育委員会が指導教員となり、個人参加の学生のコンペティション参加支援を行った。学内で参加希望者を募り、1 名の学生申込があったが、諸事情により、学生が辞退し、コンペの性質上、途中辞退が不可能であったため、教員のみで発表を行った。



◆職員向け情報リテラシー研修

昨年度に引き続き 2019 年度も、教務部より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。

開催日時：8 月 30 日（金）13：30～15：30

9 月 10 日（火）13：30～15：30

主 催：本学教務部

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

テ ー マ：教務関連データを加工・分析し、意思決定支援に活用する

対 象：本学職員

（3）オンデマンド科目の新規作成および改修

2019 年度は「社会調査入門」科目について社会調査部会の協力を仰ぎ、日本語版改修を行った。また、政府統計部会の協力を仰ぎ「多変量解析入門」科目の日本語版改修を行った。そして、これをもとにして「多変量解析入門」の英語版コンテンツを作成した。

（4）データサイエンス副専攻支援

データサイエンス副専攻のガイダンスを 6 月 20 日（木）の昼休み及び、1 月 22 日（水）の昼休みに行った。また、ニュースレター（Vol.3、Vol.4）を作成した。

（5）2019 年度事業を振り返って

「社会調査入門」および「多変量解析入門」という既に開講されていたオンデマンド科目の改修を行い、新たに英語で構成されるコンテンツを作成した。また、JINSE 版統計検定のための学習コンテンツを充実させた。さらに今後も、国内および学内外との連携の下、統計教育部会での統計教育の充実のための活動を行い、統計教育の質保証と一層の充実のため、これまでの種々の活動を継続する。

3 資格支援事業

1) 社会調査士

「社会調査士」と「専門社会調査士」は、いずれも一般社団法人社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的として作られた資格である。

社会情報教育研究センターでは、社会調査部会の助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学生の資格取得や各学部・学科の認定科目申請の支援を行うなど、立教大学内の社会調査士資格にかんする窓口業務を担っている。

◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度参加学部・研究科

- ・全学共通カリキュラム運営センター（オンデマンド授業）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・観光学部 交流文化学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

〈資格申請〉

2019年度の社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士の資格申請・資格取得者数は以下の通りである。

社会調査士 資格申請者数： 85名（2020年3月申請分）

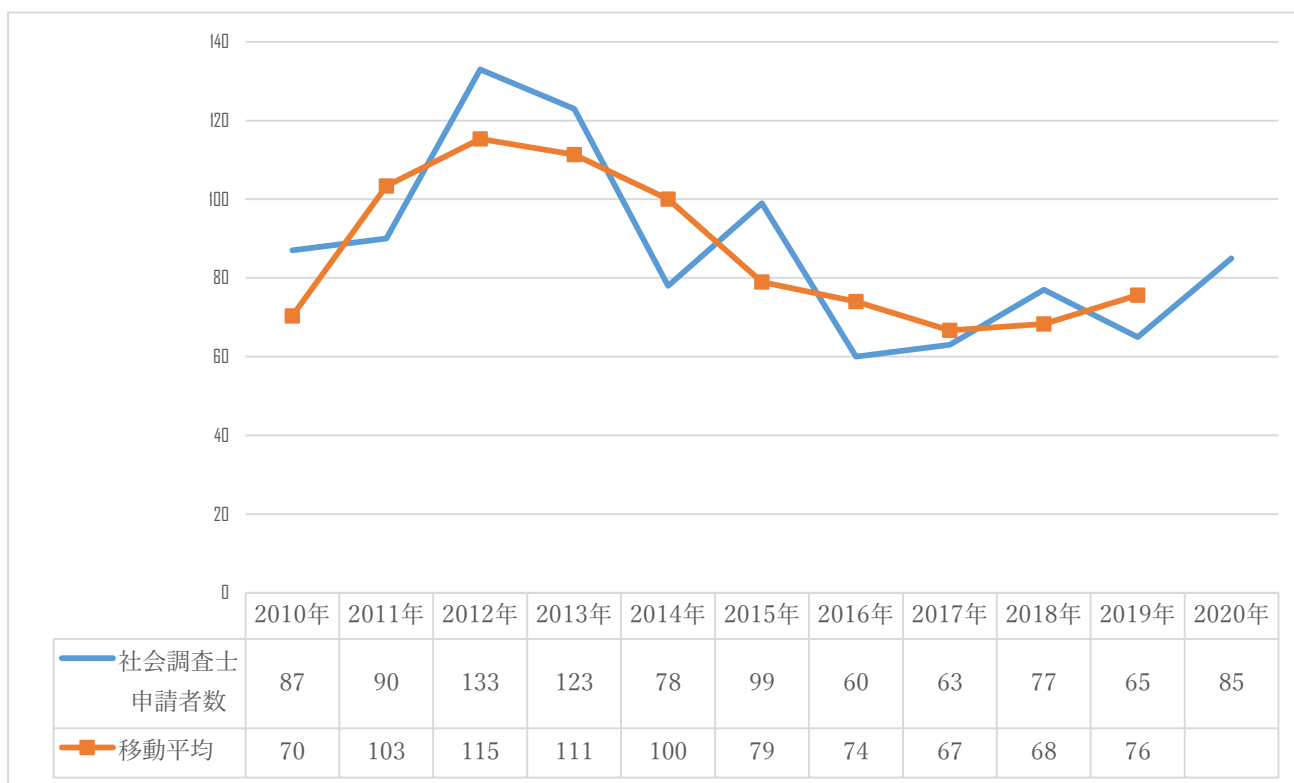
専門社会調査士 資格申請者数：4名（2020年3月申請分）

社会調査士（キャンディデイト）資格取得者数：80名（春学期57名・秋学期23名）

（2020年3月31日時点）

◆本学における社会調査士資格ならびにキャンディデイト資格申請の推移

【社会調査士申請者数の推移（2020年3月）】

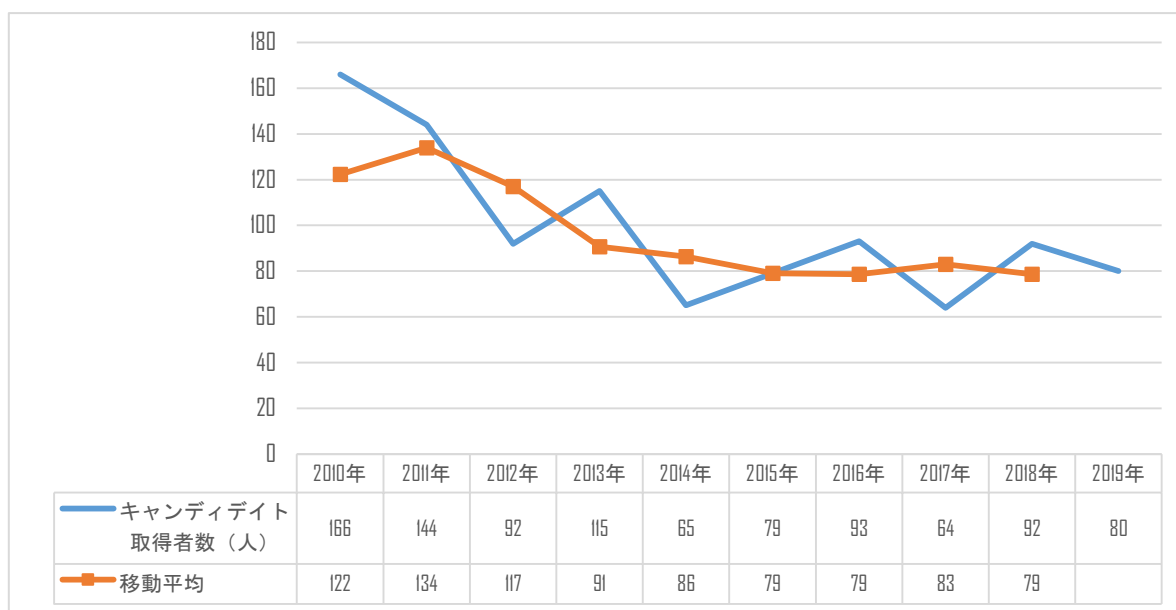


【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2020年3月）】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部	観光学部	現代心理学部	大学院		合計
	現代文化学科	社会学科	メディア社会学科			コミュニティ政策学科		心理学科	社会学研究科	コミュニティ福祉学研究科	
第21回 (2020年春)	6	15	3	3	0	22	1	35	4	0	89

上記のグラフは、2010年度から2019年度末までの、社会調査士の申請者数の推移、移動平均を示したものである。また、2019年度学部学科別の社会調査士、および専門社会調査士の申請者数は上記表のとおりである。社会学部、現代心理学部、コミュニティ政策学部の学生申請者数が、昨年よりも増加している。

【社会調査士（キャンディデイト）取得者数の推移】



本学における社会調査士資格のキャンディデイト申請者数は、上記の表のとおり推移している。2010年度に、教務事務センターより窓口業務が移管され、社会情報教育研究センターでの申請受付が始まった。2019年度のキャンディデイト申請者数は80名で、前年度に比べると12名の減少となった。

【2019年度学部学科別 社会調査士（キャンディデイト）取得者数】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部	現代心理学部 心理学科	合計
	社会学科	17 社会学科	現代文化学科						
2019年10月認定者数 (春学期申請)	10	2	1	7	0	11	0	26	57
2019年12月認定者数 (秋学期申請)	10	0	7	2	1	3	0	0	23
合計	20	2	8	9	1	14	0	26	80

上記の表は、2019年度の学部学科別の社会調査士（キャンディデイト）取得者数を示している。社会学部では、他学部に比べて社会調査士科目を取得しやすいカリキュラム設計がなされているため、毎年一定数の学生が申請に訪れている。一方、コミュニティ福祉学部や現代心理学部でも学生の関心が高く、特に現代心理学部においては、授業内で積極的に告知したため、学生の資格の認知度を高めることができ、学生の資格取得につながったと考えられる。

〈科目申請〉

2019年度も、2018年度に引き続き Google ドライブを活用して、各学部・学科・研究科への説明書類の配布、及び各学部から申請科目の情報収集を行った。また、2012年度からの社会学部の連絡責任者との打ち合わせは今年度も行き、スムーズに事を進めることができた。

2019年度は資格取得対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で116科目（2019年度112科目、2018年度遡及4科目）の認定を受けた。2020年度の対応科目として111科目の認定申請手続を2019年12月に行った。

2) 統計検定

一般財団法人統計質保証推進協会主催による統計検定は、2019年度は、春季6月、秋季11月の2回実施された。

統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけられる。社会情報教育研究センターでは2011年度より団体受験の案内・申込受付から統計検定対策セミナー開催に至るまで、統計検定受験者に対する一元的な支援を行っている。

2019年度は拡大版JINSE（統計教育連携ネットワーク）に加盟しているため、JINSE版統計検定を受験する本学学生に対しては一般の受験料の4割引の金額が適用された。あわせて、統計検定ガイダンス、統計検定対策セミナー、統計調査士試験対策セミナーを実施した。

◆春季日程

実施日：2019年6月16日（日）

会場：池袋キャンパス8号館 8201、8202教室

	準1級	2級	3級	4級	合計
受験申込者	1	24	8	1	34
実受験者	0	18	6	0	24

◆秋季日程

実施日：2019年11月24日（日）

会場：池袋キャンパス9号館 9B01・9B02・9B03教室

	1級	2級	3級	4級	統計調査士	専門 統計調査士	合計
受験申込者	1	20	22	1	4	0	47
実受験者	1	15	20	0	4	0	40

4 教育支援事業

1) 正課科目の開発・提供

2019年度も引き続き全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」・「Introduction to Statistics1」・「Introduction to Statistics2」の運営を行った。なお、これら7科目は社会調査士資格認定科目となっている。

◆社会調査入門

【担当者】 五十嵐 彰 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 高橋 かおり (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 120名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆社会調査の技法

【担当者】 五十嵐 彰 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 高橋 かおり (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】 87名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データ分析入門

【担当者】 山口 誠一 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 門田 実 (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 118名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 1

【担当者】 山口 和範 (経営学部 教授)、ドイ・ジミー (立教大学 兼任講師)

【教育コーチ】 門田 実 (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 20名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データの科学

【担当者】 山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 門田 実（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 65名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 2

【担当者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 門田 実（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 10名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆多変量解析入門

【担当者】 濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 西林 勝吾（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 19名

授業内容はシラバスを参照のこと。

2) 各種コンテンツの開発および改修

◆オンデマンド授業コンテンツの英語化および改修

2019年度は「社会調査入門」科目について社会調査部会の協力を仰ぎ、日本語版改修を行った。また、政府統計部会の協力を仰ぎ「多変量解析入門」科目の日本語版改修を行った。そして、これをもとにして「多変量解析入門」の英語版コンテンツを作成した。

5 研究支援事業

1) 調査研究コンサルティング

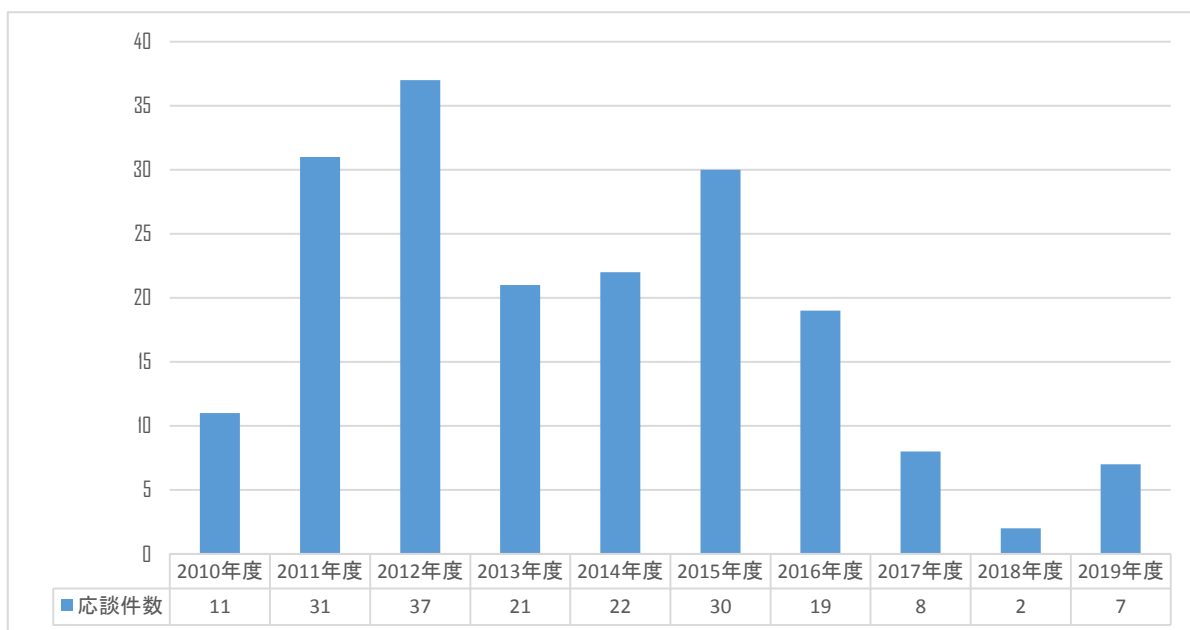
社会情報教育研究センターでは、立教大学の大学院学生や教職員を対象に調査研究に関するコンサルティングを行っている。主な相談内容は、学内アンケートや社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計分析に関する相談である。多くは一回にとどまらず、その後の調査経過も含めて継続的なコンサルティングとなっている。

2019年度のコンサルティング応談件数は7件であった。2017年度から、コンサルティングを申込み際にコンサルティングフォームに相談者の指導教授の氏名や連絡先を記入する欄を設けた。このことにより、コンサルティングを受ける前に指導教授に連絡する必要性が生じ、コンサルティングの申込数の減少につながったものと考えられる。相談内容の聞き取りを進めていく過程で、セミナー受講や自学自習によって社会調査や統計分析についての知識を身につけることを勧めた結果、申込につながらなかったケースもあった。

【2019年度社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】

	個人による依頼	総計
ビジネスデザイン研究科	5	5
社会学部	1	1
法学部	1	1
総計	7	7

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数 年度別推移】



2) 統計セミナーサポートスタッフ

2015 年度よりメディアセンターと連携し、大学院学生のアリバイトスタッフが社会情報教育研究センター主催の各種セミナーでのセミナーサポート業務および図書館での SPSS などの統計ソフトウェアに関する応談業務に就いている。2019 年度はセミナーサポートが 0 件、統計ソフトウェアの応談が 5 件であった。

3) 対外連携活動

◆社会調査協会

一般社団法人社会調査協会と連携し、同協会が実施する講習会事業の開催協力を行っている。2019 年度は社会調査士科目 (S1) 講習会、およびアドバンスド社会調査セミナーへの開催協力を行った。詳細は「2-2) 社会調査部会 2019 年度事業報告」の「◆共催・後援セミナー等」に掲載している。

◆ICPSR (本部および国内利用協議会)

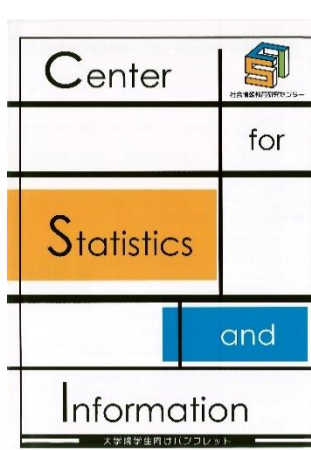
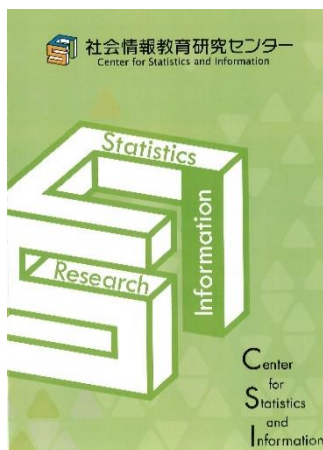
ICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research : 政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部 : ミシガン大学 社会調査研究所) は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブでもある。立教大学は、国内利用協議会 (ハブ機関 : 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター) を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

社会情報教育研究センターは、この ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報を担当するとともに、ICPSR 本部が実施するサマープログラム (セミナー)、さらには ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報も行っている。

2019 年度は本大学より経営学研究科修士課程の学生 1 名が参加した。サマープログラムに関する周知や情報共有を行うため、同学生にインタビューをして記事としてまとめ、CSI のホームページに掲示した。インタビュー記事は ICPSR 国内利用協議会のウェブサイトにも掲載され、サマープログラムの情報共有に貢献している。

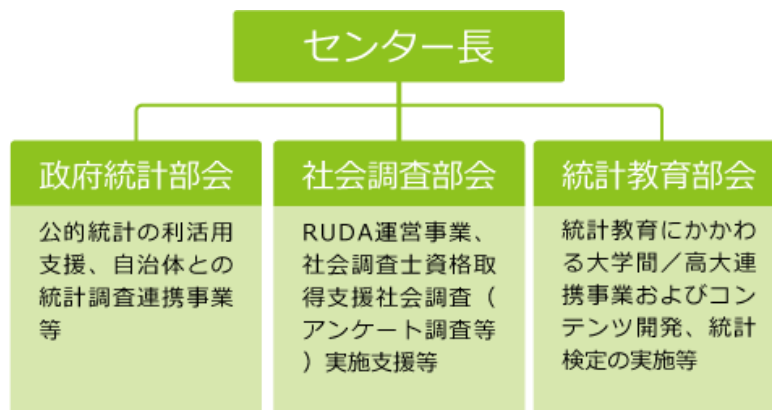
6 出版物

- 『日本の公的統計・統計調査』
- NEWS LETTER (Vol. 3, Vol. 4)
- 社会情報教育研究センター研究紀要『社会と統計』（第6号）
- CSIパンフレット



7 組織図および構成メンバー

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



■センター長

水上 徹男（社会学部 教授）

《政府統計部会》

■部会リーダー

櫻本 健（経済学部 准教授）

■部会メンバー

安藤 道人（経済学部 准教授）

濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

西林 勝吾（社会情報教育研究センター 助教）

石田 航一（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

■研究協力者

菊地 進（本学 名誉教授）

藤野 裕（日本農業経営大学校 専任講師）

倉田 知秋（総務省政策統括官（統計基準担当）付統計審査官付）

菊地 航（本学 経済学部 准教授）

山口 隆太郎（本学 経済学部 助教）

小西 純（（公財）統計情報研究開発センター）

■連携機関

法政大学日本統計研究所

《社会調査部会》

■部会リーダー

岩間 暁子（社会学部 教授）

■部会メンバー

松本 康（社会学部 教授）

高木 恒一（社会学部 教授）

五十嵐 彰（社会情報教育研究センター 助教）

高橋 かおり（社会情報教育研究センター 助教）

佐藤 裕亮（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

渡辺 浩平（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

小松 恵（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

トウブン（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

宮澤 篤史（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

■研究協力者

前田 豊（関西学院大学 社会学部 助教）

《統計教育部会》

■部会リーダー

山口 和範（経営学部 教授）

■部会メンバー

都築 誉史（現代心理学部 教授）

山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

門田 実（社会情報教育研究センター 助教）

《社会情報教育研究センター事務局》

毛利 立夫（総務部情報システム課 担当課長）

宮本 信愛（総務部情報システム課 課員）

重田 根見子（総務部情報システム課 課員）

木田 英樹（総務部情報システム課 課員）

加藤 倫子（社会情報教育研究センター・教育研究コーディネーター）

小山田 基香（社会情報教育研究センター・教育研究コーディネーター）

服部 好美（社会情報教育研究センター事務局）

内河 真由美（社会情報教育研究センター事務局）